

使用教科書：（新編 情報 I 東京書籍）

副教材：（新編情報 I 学習書（NHK出版））

教科 情報

の指導目標：

- （1）情報技術を活用し主体的に問題解決を行い、情報化の進展や影響に関心をもち考察や提案等ができる。
- （2）様々な事象を情報との関連性で応用し、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する。
- （3）情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に意欲的に参画し、情報社会の発展や問題解決を行う。

科目 情報 I

の指導目標

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【主体性・学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|---|
| 情報技術を活用し主体的に問題解決ができる。情報化の進展や影響に関心をもち考察や提案等ができる。科学的な理解のもと情報技術を駆使して様々な課題解決に取り組む。 | 様々な事象を情報との関連性で捉え思考し応用できる。問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用し判断材料を提起し、解決する。 | 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に意欲的に参画している。情報社会の発展や問題解決に寄与すべくアイデアや分析結果などを提案する。 |

| 履修の留意点 | 単位数 | レポート提出規定通数 | スクーリング出席規定回数 | 視聴メディア |
|--------------------------|-----|------------|--------------|--------|
| 必修科目のため入学初年度に履修することが望ましい | 2 | 年 4 通 | 年 4 回以上 | ※ |

| | スクーリング丸数字・指導単元 | 指導方法 | 指導（学習）内容 | レポート | 提出期限 | スクーリング | | | | 備考 | |
|----|---|--|--|------|--------|--------|--------|--------|--------|----|--|
| | | | | | | | | | | | |
| 前期 | ①メディア特性・発想法・情報モラル ②著作権・情報と生活の変化・知的財産の公共性 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等 | 【知識・技能】 情報やメディアの特性を理解できる。著作権では、どのようなものを保護しているか理解している。 【思考・判断・表現】 伝える情報に対して適切な表現メディアを判断することができる。著作権の利用について判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報やメディアの特性を理解できる。授業で使われる著作権の扱いについて調べようとしている。 | 第1回 | 6月18日 | 5月2日 | 5月9日 | 5月30日 | 6月13日 | | |
| | ③匿名性・デジタルの世界・数値と文字のデジタル表現 ④色と動画のデジタル表現・情報の圧縮 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等 | 【知識・技能】 数値のデジタル化の方法を理解している。色と動画のデジタル化の方法を理解している。 【思考・判断・表現】 文字コードに当てはめて文字をコンピュータで表現することができる。色や光の三原色を調整して、コンピュータで色を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 コンピュータで数値や文字をデジタル化する方法に興味を持とうとしている。コンピュータで色や動画をデジタル化する方法に興味を持とうとしている。 | 第2回 | 7月23日 | 6月20日 | 6月27日 | 7月4日 | 7月18日 | | |
| | 定期考査 | 前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表 | | | | | | | | | |
| 後期 | ⑤コンピュータの情報処理・演算の仕組み・アルゴリズム ⑥プログラムの基本構造・Pythonプログラム | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等 | 【知識・技能】 アルゴリズムを表現する方法を理解している。プログラムの順次構造を理解している。 【思考・判断・表現】 アルゴリズムを考えることができる。プログラムに表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 アルゴリズムを考えようとしている。例題のプログラミングをしようとしている。 | 第3回 | 11月12日 | 10月3日 | 10月17日 | 10月24日 | 11月7日 | | |
| | ⑦フローチャート・インターネットの仕組み・情報セキュリティ ⑧検索のコツ・図解表現・データの分析 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等 | 【知識・技能】 データの形式について理解している。データを収集して可視化する技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 データの性質を適切に判断することができる。データを分析して表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近にあるデータに興味を持とうとしている。問題解決のために、データを収集し、分析し、結果を表現しようとしている。 | 第4回 | 12月24日 | 11月14日 | 11月21日 | 12月5日 | 12月19日 | | |
| | 定期考査 | 後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表 | | | | | | | | | |

※視聴メディア（NHK高校講座）については、Web学習コースのみ

| 学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準 | |
|------------------------------|---|
| レポート評価基準 | |
| A | 設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。 |
| B | 設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。 |
| C | 設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。 |
| D | 設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。 |
| 再提出 | 正答が設問の合格ライン(80%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が80%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。 |
| 無効 | 著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。 |

観点別評価

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|--|--|
| 情報技術を活用し主体的に問題解決ができる。情報化の進展や影響に関心を持ち考察や提案等ができる。科学的な理解のもと情報技術を駆使して様々な課題解決ができる。 | 様々な事象を情報との関連性で捉え思考し応用できる。問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用し判断材料を提起し、解決できる。 | 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に意欲的に参画している。情報社会の発展や問題解決に寄与すべくアイデアや分析結果などを提案できる。 |

| 評定の方法など(前期評価・後期評価) |
|--|
| 定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。 |

使用教科書：（ 情報Ⅱ 東京書籍 ）

副教材： なし

教科 情報

の指導目標：

- (1) 情報化の進展や影響に関心をもち、科学的な理解のもと情報技術を駆使して様々な課題解決に取り組める。
- (2) 様々な事象を情報との関連性で捉え、問題の発見・解決に向けて高度な情報技術を適切かつ効果的に活用する。
- (3) 高度な情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会の発展や問題解決に寄与すべく分析結果などを提案する。

科目 情報Ⅱ

の指導目標

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【主体性・学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|--|
| 高度な情報技術を活用し主体的に問題解決ができる。情報化の進展や影響に関心をもち考察や提案等ができる。科学的な理解のもと情報技術を駆使して様々な課題解決に取り組める。 | 様々な事象を情報との関連性で捉え思考し応用できる。問題の発見・解決に向けて高度な情報技術を適切かつ効果的に活用し判断材料を提起し、解決に至ることができる。 | 高度な情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に意欲的に参画している。情報社会の発展や問題解決に寄与すべくアイデアや分析結果などを提案できる。 |

| 履修の留意点 | 単位数 | レポート提出規定通数 | スクーリング出席規定回数 | 視聴メディア |
|------------|-----|------------|--------------|--------|
| 情報Ⅰを履修後に履修 | 2 | 年 4 通 | 年 4 回以上 | ※ |

| | スクーリング丸数字・指導単元 | 指導方法 | 指導（学習）内容 | レポート | 提出期限 | スクーリング | | | | | 備考 | |
|----|---|----------------------------------|--|------|--------|--------|--------|--------|--------|--|----|--|
| | | | | | | | | | | | | |
| 前期 | ①情報社会の進展・人間の知的活動への影響 ②高度な情報技術・コミュニケーションの多様化 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 | 【知識・技能】 情報社会の進展を理解している。高度な情報技術を理解している。 【思考・判断・表現】 情報社会に対して人間の知的活動への影響を判断している。情報社会に対するコミュニケーションの多様化を判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会の進展を理解しようとしている。高度な情報技術を理解しようとしている。 | 第1回 | 6月18日 | 5月9日 | 5月16日 | 5月23日 | 6月6日 | | | |
| | ③メディアの特性・利用 ④コンテンツの制作・発信 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 | 【知識・技能】 メディアの特性を利用している。コンテンツを制作、発信している。 【思考・判断・表現】 伝える情報に対して適切な表現メディアを判断することができる。伝える情報に対して適切なコンテンツを判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 メディアの特性を利用しようとしている。コンテンツを制作、発信しようとしている。 | 第2回 | 7月23日 | 5月9日 | 6月20日 | 7月11日 | 7月14日 | | | |
| | 定期考査 | 前期試験 9月の土曜 | 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表 | | | | | | | | | |
| 後期 | ⑤社会にあふれるデータ・データサイエンス ⑥データベースの管理と操作・収集と整理・分析と分類 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 | 【知識・技能】 データサイエンスについて理解している。データベースの管理方法について理解している。 【思考・判断・表現】 データの性質を適切に判断できる。データベースの管理方法を適切に判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 データサイエンスとして社会にあふれるデータを捉えようとしている。データベースの管理方法に興味を持とうとしている。 | 第3回 | 11月12日 | 10月10日 | 10月24日 | 10月31日 | 11月7日 | | | |
| | ⑦モデルの評価と検証・機械学習と人工知能 ⑧情報システム・セキュリティ技術 | ・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等 | 【知識・技能】 モデルの評価と検証について理解している。情報システム、セキュリティ技術について理解している。 【思考・判断・表現】 モデルの評価を適切に判断できる。情報システムに対するセキュリティ技術を適切に判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 モデルの評価と検証について興味を持とうとしている。情報システム、セキュリティ技術について興味を持とうとしている。 | 第4回 | 12月24日 | 11月21日 | 11月28日 | 12月12日 | 12月19日 | | | |
| | 定期考査 | 後期試験 1月～2月の土曜日 | 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表 | | | | | | | | | |

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

| 学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準 | |
|------------------------------|---|
| レポート評価基準 | |
| A | 設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。 |
| B | 設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。 |
| C | 設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。 |
| D | 設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。 |
| 再提出 | 正答が設問の合格ライン(80%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が80%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。 |
| 無効 | 著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。 |

観点別評価

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|--|--|--|
| 情報技術を活用し主体的に問題解決ができる。情報化の進展や影響に関心を持ち考察や提案等ができる。科学的な理解のもと情報技術を駆使して様々な課題解決をする。 | 様々な事象を情報との関連性で捉え思考し応用できる。問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用し判断材料を提起し、解決できる。 | 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に意欲的に参画している。情報社会の発展や問題解決に寄与すべくアイデアや分析結果などを提案できる。 |

| 評定の方法など(前期評価・後期評価) |
|--|
| 定期考查点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。 |